大崎市
おにこうべかぐら
鬼首神楽

鬼首神楽は、起源は不明ですが、岩手県の「南部神楽」の流れをくむものです。西京や関東の武士が奥羽地方に来た時に演じたものと言われ、特に奥州平泉藤原氏全盛時代から東北の武士たちの間で広く演じられるようになり、盛んになりました。それが宮城県栗原郡を中心に伝わり、大崎市鳴子鬼首に伝えられ演じられています。

大正 14 年 7 月には鬼首地区の神楽の伝承と発展のため、鬼首神楽保存会が結成されました。現在は地域神社の祭典や文化祭など様々なイベントで演じられています。

演舞は、太鼓と摺鐘（すりがね）を神楽歌に合わせて舞台で演奏し、舞手が幕内から現れて舞いながら歌詞に独特の節をつけ歌い、喜怒哀楽に富んだ内容の演目で行われます。

演目は多数ありますが、鬼首地区の村社である荒雄川神社例大祭では鶏舞が奉納されます。

近年では後継者育成のため、鬼首小学校の 5、6 年生に教え、その保存に努めています。